

第1回航空・宇宙WG

2026年1月

石田 真康

一般社団法人SPACETIDE
代表理事 兼 CEO

宇宙企業の成長はBlended Finance(混合資本)が肝要

SpaceXの成長と政府及び民間からの資金調達(KBS芦澤准教授と共同作成、5年単位、民間からの資金調達は報道やニュースベース)

年代	活動実績	政府との契約や補助金	民間からの資金調達
2000年代前半	SpaceX創業	04年:DARPAとFalcon計画契約(800~1200万ドル)	02年:イーロンマスク本人が1.8億ドルを投資
2000年代後半	Falcon1の打ち上げに成功	06年:NASAとCOTS契約(4億ドル) 08年:NASAとCRS契約(12回分、16億ドル)	08年:Founders Fundが2000万ドル投資
2010年代前半	Dragonによる物資輸送成功 Starlinkの開発開始	11年:NASAとCCDeV契約(7500万ドル) 12年:DoDとEELVクラスの打ち上げ契約(契約額不明) 14年:NASAとCCtCap契約(26億ドル)	
2010年代後半	Falcon9の第一段回収に成功 Crew DragonによるISSへのドッキングに成功 Starlink打ち上げ開始	15年:NASAとCRS契約拡張(4億ドル) 16年:NASAとCRS第二フェーズで契約(3社で最大14億ドル) 16年:米空軍とGPS衛星打ち上げ契約(8270万ドル) 18年:米空軍とGPS衛星打ち上げ契約(2億9000万ドル)	15年:GoogleとFidelityが10億ドルを投資(企業価値120億ドル) 17年:複数の投資家から3.5億ドルを調達(企業価値210億ドル) 19年:複数の投資家から19億ドルを調達(企業価値360億ドル)
2020年代前半	民間人による宇宙旅行や宇宙遊泳に成功 Starlinkのユーザー数が900万人を突破	20年:米宇宙軍とNSSL契約(初年度3億ドル、最大計40億ドル) 21年:NROと打ち上げ契約(18億ドル) 21年:NASAとStarship HLSと契約(2.8億ドル)	20年:複数の投資家から19億ドルを調達(企業価値460億ドル) 21年:複数の投資家から19億ドルを調達(企業価値740億ドル) 22年:追加の資金調達(企業価値1270億ドル)

宇宙戦略基金 を起点とした 産業強化

政府の取り組み

政府調達(予見性)
投資促進・信用補完
国際展開支援 等

技術開発マネジメント
ステージゲート審査
加速・減速・中止

日本の基幹産業としての宇宙
市場拡大・社会課題解決・知の探究/深化

世界で勝つ意志・技術・
事業モデルを有するプレイヤー

民間の取り組み

民間投資・融資
M&A・提携
国際市場開拓 等

自己投資
技術開発・実証
顧客開拓・事業化準備

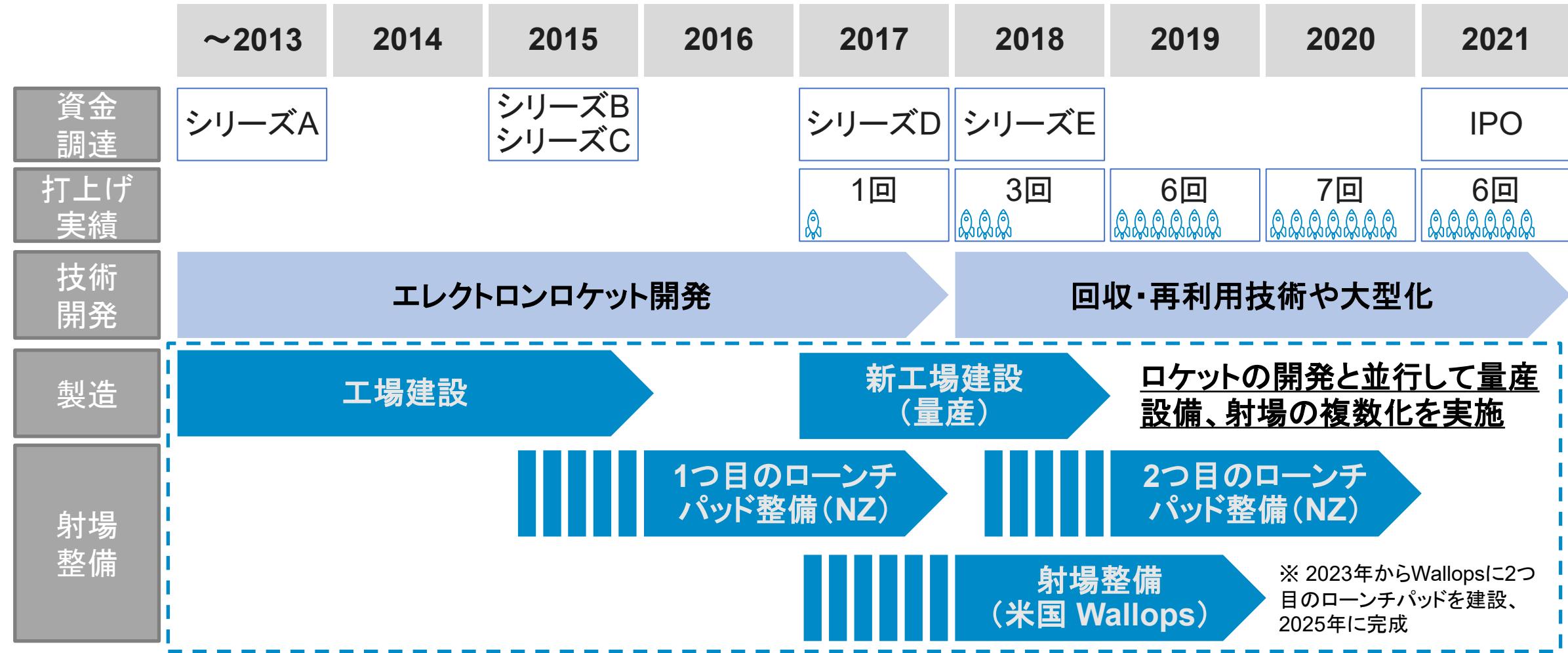
成長スパイラル

有望な成果・技術・機関

宇宙戦略基金採択案件(約200件)

高頻度打ち上げ＝技術開発＋量産設備＋複数打上げ設備

Rocket Labの成長と企業活動(出所:Kearney資料を元に筆者作成)



拡大・多様化する宇宙時代の業界構造

宇宙業界のトレンドの広がり

- 宇宙科学や探査の進展
- 宇宙安全保障の高まりと予算増加
- 社会インフラとしての宇宙の高まり
- Sovereign Capabilitiesの追求
- 宇宙活動国の人材増加
- 民間による宇宙ビジネスの台頭
- 異分野・産業との融合
- テクノロジーの進化

業界のステークホルダーの広がり



宇宙業界全体として、

- どのように役割分担がなされるべきか？
- 中核機関の宇宙機関はどのような機能・役割を持つべきか？
- 民間が担うべき機能・役割は何か？
- 業界全体として目指す姿に向けてどう強化、推進すべきか？

(参考)日本の宇宙企業の単元株主数

宇宙企業各社の単元株主数

企業名	時価総額 (百万円 2026.1.22)	単元株主数 (出所:FISCO)
トヨタ自動車(参考)	56,593,440	1,036,090
スカパーJSATホールディングス	633,763	34,623
アストロスケールホールディングス	125,624	36,766
QPS研究所	83,077	39,498
ispace	77,914	76,268